

活動団体： 特定非営利活動法人 ISAPH(アイサップ)

International Support and Partnership for Health
～Health for all すべての人が健康を「自分のもの」と考える世界を
目指して～

団体の活動



開発途上国での保健医療協力を実施する団体として
2004 年に設立しました。ラオス・マラウイでの地域保健
事業に加え、研究や人材育成を通してグローバルな社会
課題の解決にも取り組んでいます。“誰ひとり取り残さ
ない”を実現するため、住民自身が「自分の健康は自分で
守る」力を育む人づくり・社会づくりを目指した草の根活
動を行っています。

<https://isaph.jp/>



関係者との MOU ドラフト会議



母子保健事業に係る聞き取り調査

インターンプロフィール

三浦 夕季



幼少期に医療格差へ疑問を抱き看護師を志す。集中治療での経験を経て語学留学のため渡豪。WHO ラオスでのコンサルタント経験を契機に国際協力の道へ。客船看護師としての経験を経て、2024 年に ISAPH ラオス事務所に着任。

所属団体で活動するきっかけ

ラオスでの勤務を通し「わかっているのにできない」という行動変容の難しさを実感しました。人々の行動の背景を科学的に考え、行動変容を促す団体の取り組みに共感し、課題の本質に向き合いたいと考え参画しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

主に母子保健分野を担当しており、今後実施予定の JICA 草の根技術協力事業「誰ひとり取り残さない母子継続ケア支援事業」に向け、MOU 締結に向けた関係者との合意形成や、現地保健医療スタッフの体制整備・協力体制構築など、基盤づくりを進めています。加えて、事業の先駆けとして「母子保健サービス利用の意思決定要因」に関する妊産婦への聞き取り調査の補佐や、教育・研修事業として大学スタディーツアーの引率なども行っています。

スキルアップのためにしていること

総合マネジメント力向上のため研修に参加するとともに、分野・課題専門力強化のため「行動科学」に関するセッションを医療従事者へ実施し、ラオスにおける意思決定の特徴について共に考え、学びを深めています。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

マラウイにて、ISAPH 設立母体である雪の聖母会聖マリア病院が実施する JICA 草の根技術協力事業に携わります。また、JICA 事務所や中央病院、SATREPS 事業へ訪問し、実務と視察を通じラオス事業に活かす知見を学ぶ予定です。

今後のビジョンは？

現場での専門性・実践力・マネジメント力を高め、母子保健分野への課題に対し、自ら戦略を立て、関係者と協働しながら実行・改善できる力を養い、JICA 草の根技術協力事業を自律的に牽引できる人材を目指したいです。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

国際協力に挑戦したい気持ちがあっても”まだ十分ではない”と迷う方もいるかと思いますが、大切なことはまず一歩を踏み出すことだと思います。行動する中で学びや出会いがあり、チャンスにつながると信じています。

団体アピール

ISAPH は設立 20 周年の節目の年に「誰ひとり取り残さない母子継続ケア支援事業」が JICA 草の根技術協力事業に採択されました。妊産期の母子の健康を守るため、地域に寄り添い、自立を支える持続可能な支援を続けていきます。